

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-26

編集後記

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

日本文学誌要

(巻 / Volume)

28

(開始ページ / Start Page)

80

(終了ページ / End Page)

80

(発行年 / Year)

1983-07-25

編集後記

☒欧州大戦当時、独乙の玩具工が自分の子供に玩具を買ってやりたいのだが、そこは戦時下で手に入れようもない。

考えた末に、悪いこととは思いつながら、そこは自分の勤めている先が玩具工場なので、少しづつ部品を集めれば、何か玩具が出来るのではないかと気付いた。

事は急げと早速毎日のように、ビス一つといったように家に運びはじめた。

部品の種類も大分多くなったある日、早速組立てはじめたが、出来上ったのは一挺の機関銃であった。

驚いて、どこか組立順に間違いがあったのではと、いく度やりなおしてみても駄目であった。

☒話とするとうまく出来ているのかもしれないが、世の中裏側はみな、このような状態が渦を巻いていることは常に思い知らされている。

ウエルズの文化史には地球創造のことが、どろどろとしたものから次第に出来上ってゆく様子が書かれている。ウエルズのこの著作は

一九〇〇年のはじめころだが、日本の古事記を見るとまた同じようなことが書かれている。もっともこの方は、言い伝えを編んだのだから、誰がそうしたことを言い出したかわからないしまったみな「神」として現われている。ウエルズが古事記を見たとも考えられないが、文化史の中には「孔子と老子」についての記述もあるので、古事記の中身にも空想が浮んでくる。

☒さらに文化史は「魚類時代」「爬虫類時代」などの記述から人間の思想、近代文化へとつながってゆくが、さて今われわれのいるのは何の時代なのであろうか。

東京の日本橋ではスペースシャトル展が開かれていて、宇宙空間への興味のみでなく、いろいろ切実な問題を多く含んでいる。その割合に地球内部については水面下四千とか六千メートル位の深さをさまよっている。一方何万光年という気の遠くなる距離の光で、土星のしたがえている輪の間を人工衛星がスイスイとくぐり抜けてゆくことは、これも人間の創作であるのだから、文学にしてももっと幅広く拡大し、精密化したものの考え方が要求されてゆくのではないか。化学でも科学で

もこの第一歩は空想がはじまりであることはみなよく知りながら、それらの発展へのみちすじをつける文学——ものの表現がやはり第一に問われるのではないだろうか。

☒総会は七月三十日(土)、各地からのみなさんとの懇談が楽しまれる。については一人でも多くお誘い合せの上、また一人でも多く著述された作品を是非お寄せ頂きたく願います。

(鈴木和雄)

一九八三年七月二五日	発行
日本文学誌要	第二八号
編集人	鈴木和雄
発行人	佐川誠義
発行所	東京都千代田区富士見二ノ一七ノ一法政大学八〇年館
発行所	法政大学国文学会
	電話〇三(264)九七五二
印刷所	新日本印刷株式会社
	東京都新宿区市ヶ谷本村町二七